

平成 27 年 11 月 2 日

薬友会 秋の交流会 ご報告

平成 13 年 学年理事 片桐 大輔

## はじめに

天候にも恵まれ、10 月 31 日（土）に予定通り、千葉支部、東京支部、神奈川支部合同で薬友会 秋の交流会 が開催されました。楽しい開催の様子を当日ご参加できなかった薬友会員の方々にもご覧いただきたく、以下のご報告を申し上げます。

## 開催概要

日時：平成 27 年 10 月 31 日（土） 15:00～18:30

場所：千葉大学薬学部医薬系総合研究棟 Ⅱ期棟 B1F 講義室

（〒260-8675 千葉市中央区亥鼻 1-8-1） <http://www.p.chiba-u.jp/>

主催：千葉大学薬友会 東京支部・神奈川支部・千葉支部合同

テーマ：薬友会交流会（学園祭の開催に合わせて）

日程：

15:00～16:30（新校舎）研究室見学

16:30～17:00 千葉大学大学院薬学研究院の現状と方向（薬友会会長 高山廣光先生）

17:00～ 懇親会（18 時 30 分中締め）

## 交流会の様子

### 1. 集合の様子

開始時間の 15 時を目指して、参加者の皆様は薬学のシンボルの『屋根飾り』の前に、徐々に集まり始めました。千葉医学専門学校時代の 1918 年 3 月に薬学科の新校舎が落成され、その屋根飾りが現在も保存されております。今回は下は 1 歳から、上は 80 歳までの幅広い参加者です。



屋根飾り前に徐々に集まってきました

## 2. 研究室見学スタート！

今回は3つの研究室にご協力いただきました。1時間30分をかけて順番に回っていきます。最初は**製剤工学研究室**。森部教授は海外学会出張のため、**東講師**にご対応いただきました。研究室の成り立ちから、変遷、そして研究内容まで広くご紹介いただき、諸先輩方は感銘を受けておられました。初めて新校舎へ足を踏み入れた方も多く、『研究環境は昔に比べるととてもきれいになったね』、『昔は汚かったね(笑)』というような楽しいお話もたくさん出ました。新しい研究設備も見学させていただき、誠にありがとうございました。



東先生（製剤工学）から近況を伺う

2つめは**生化学研究室**。伊藤教授と学部生にご協力いただきまして、研究室の雰囲気に加え、近年、企業の毒性試験等でも注目される『ゼブラフィッシュ』の顕微鏡観察の体験や、遺伝子実験対象としてのハエを育成・実験されている専用のお部屋の見学もさせていただきました。体験型の見学に、皆さん昔の研究室在籍時の血が騒いだのか、または現在の研究職の血が騒ぐのか、熱心に見て回っておられました。貴重な研究資源を今回の研究室見学に合わせて調整していただいた生化学研究室に、心より御礼申し上げます。



顕微鏡にて『ゼブラフィッシュ』を確認

最後3つめは生体機能性分子研究室です。高山教授（学部長・薬友会会長）にご協力いただきまして、学生、院生の皆さんが忙しく実験をされておられる現場を見学させていただきました。こどもがイメージする『実験』というものに最も近いであろう研究設備が並びます。エバポレーター内のピンク色の液体がぐるぐるとまわっている様子は、参加者の4歳のお子さんの心をとらえたようで、とても楽しそうに見ていました。将来のノーベル賞候補と期待できます。研究室の成り立ちや研究内容を伺いながら、楽しく研究室見学が終了しました。

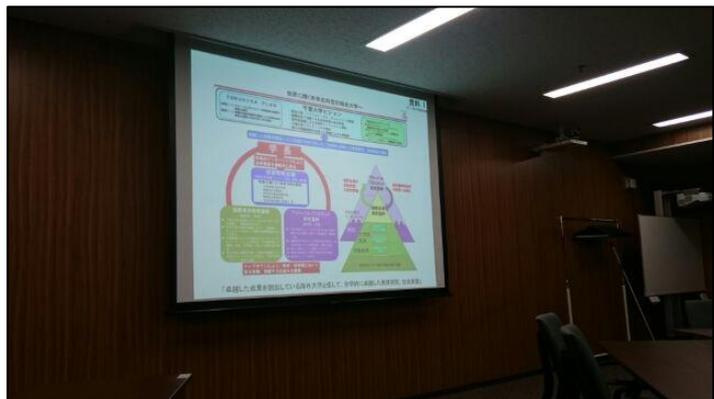


高山先生の解説に真剣に耳を傾ける参加者たち

ご協力いただきました先生方、研究室の皆様、誠にありがとうございました。

### 3. 薬学部の近況について

研究室見学終了後、場所をⅡ期棟 B1F 講義室へ移し、高山教授から『薬学部の近況について』と題して30分お話をいただきました。近年、大きく変化している国立大学の環境から、薬学部が進む方向性などを解説いただき、参加の薬友会会員も母校に何かできることはないか？との視点から真剣に話に聞き入っておられました。



薬友会員と共に現在の薬学部の情報を共有

#### 4. アルコールで喉を潤す交流会（交流会本番？）スタート

さて、そろそろ喉が渴いたと疼いてきたところで本番が(笑)始まりました。研究室見学に対応いただいた先生方からもご出席をいただくことができました。昭和 52 年卒 中村英雄さまの司会により、まずは渡辺和夫先生・薬友会副会長（昭和 33 年卒）より乾杯のご発声をいただきました。続けて、船岡紀子さま・千葉支部長（昭和 48 年卒）、渡辺楷さま・東京支部長（昭和 33 年卒）、村瀬一郎さま・神奈川支部長（昭和 38 年卒）からご挨拶をいただき、薬友会を皆さんで盛り上げていこうとするとても楽しいお話をいただきました。研究室見学に対応いただいた学生さんも無料でご招待し、世代を超えた交流が実現し、楽しいひと時となりました。尚、千葉支部、東京支部、神奈川支部より本交流会費用として 1 万円ずつ、合計 3 万円の補助をいただきました。心より御礼申し上げます。



渡辺先生・薬友会副会長より乾杯のご発声



村瀬さま・神奈川支部長から学生へ暖かいエール。  
学生も思わず笑顔。



世代を超えた楽しい交流



筆者（左）と同世代の先輩・友人

## おわりに

皆様のご協力により、盛況のうちに、薬友会 秋の交流会は終了いたしました。誠にありがとうございました。当初予定しておりました、合計 30 名ほどの参加人数にて滞りなく実施することができましたのは、参加者の皆様、研究室見学にご対応いただいた先生方、学生の皆様のおかげと、改めまして御礼申し上げます。お子さんを連れて来てくれた薬友会員もおりました。将来のノーベル賞受賞者が、こうした同窓会の交流から生まれたらとても素敵ですね。学生さんの参加もいただき、幅広い世代での開催となりましたことを喜んでおります。また、こういった楽しい雰囲気から、大学との共同研究などの産学連携が益々進めば嬉しいなとも思っております。

皆様、誠にありがとうございました。